

裁学校生で約7時間、女子大学生で14.5時間であり、複雑かつ精密さが要求される「袖作り」と、作業が広範囲にわたる「表裏合わせ」の二部位でその差が大きく出ている。また三者共、「縫い」「待針うち」「とじ等」の三要素が上位三位を占めているが業者ではこれが全体の57.8%、和裁学校生で67.8%、女子大学生で71.3%、即ち業者の時間短縮は、これら基礎技術の訓練が行き届いていることに因るなどのことがわかった。

C-27 被服工作の管理、能率に関する研究 —女物衿長着の時間分析—

奈良女大家政 ○中田ヒロミ
奥村万亀子
水梨サワ子

1. 手作業、手仕事というものの占める割合の大きい被服工作作業において、一体どれ位の作業時間が消費されているのか、熟練によってどれ位時間がちぢめられるものなのか、又作業の種類、組合わせなどによって時間短縮に違いがあるものなのかどうか、そういった人間の手作業、手仕事の実態をとらえたいと考え、この実験に取りかかった。縫製作業に Time Study を取り入れた研究報告は、これまでもかなりあるが、我々は、大裁女物衿長着をとりあげ、時間分析を行なった。

2. 研究方法はまず、被観測者を (イ)和服縫製専門業者、(ロ)和裁学校生徒、(ハ)女子大学生の三者とし、それぞれの最も慣れた作業工程に従うものとした。観測にあたっては、予め要素作業とその範囲を決めておき、ストップウォッチにより、主本作業時間と附随作業時間を測定し、両者の加算により正味作業時間を求めた。

3. その結果、衿長着縫製の平均時間は、業者及び和